

1- 1 1 倫理学

研究・教育活動の概要と特色

倫理学専攻分野は哲学専攻分野とともに、研究教育活動を常に共同で行っています。

一つには、東北哲学会の事務局として担当する五十有余年にわたる活動を継続し、平成 17 年度も東北地方を中心とする諸大学の研究者の研究発表大会（第 54 回）を開催し、年報（第 21 号）を刊行しました（毎年度同様に開催しています）。また、大正期よりの長い伝統である現象学研究をいまに引き継ぎ、五月にはフッセル・アーベントを開催し、十一月にはフッサール研究国際会議を招致しました。

大学院生に対する教育活動としては、まず各院生の専攻研究と論文執筆を向上進展させるべく、研究発表会での討論と機関紙『思索』（第 37 号）への発表に努力しました。また、今日の社会と学界における応用倫理学の動向に応えるために、機関紙『Moralia』（第 11 号）を場として、生命・医療・環境・技術などに関する研究と論文発表を促進してきました。またこの『Moralia』に関しては、今年度は倫理学専攻分野が出版費用を受け持つ形で、広く大学内外に影響力のある執筆者を募って刊行する予定です。

さらに今年度は、他大学（弘前大学、盛岡大学等）の研究者を共同研究者として、あらたなプロジェクト「対話の垂直性について — ハイパーダイアログの包括的理解 —」（代表研究者：倫理学専攻分野教授・戸島貴代志）を立ち上げ、すでに本学他専攻分野（心理学）との共同開催で、第一回目の研究集会を行いました。

また、市民参加型講義「日曜大学」もほぼ月に一度のペースで昨年度から行われており、「みやぎ県民大学」やホームページでの発信と相俟って、倫理学専攻分野による社会貢献の一つとなっています。

I 組織

1 教員数（2009 年 9 月末現在）

教授：1

准教授：0

講師：0

助教：0

教授：戸島貴代志

2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
27	0	9	3	0

3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	3	2	0
06	3	1	1
07	4	0	1
08	5	0	0
09	4	0	1
計	19	3	3

* 2009年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	0	0	0
06	1	0	1
07	0	0	0
08	2	0	2
09	0	0	0
計	3	0	3

* 2009年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

横地徳広、2006年度『超越の倫理—ハイデガーとレヴィナス—』

審査委員：教授・野家啓一(主査)、教授・座小田豊教授、助教授・戸島貴代志、助教授・荻原理、助教授・熊野純彦（東京大学）。

大森史博、2008年度『メルロ＝ポンティ後期存在論の帰趨—実存的永遠性に向かって—』

審査委員：教授・戸島貴代志(主査)、教授・座小田豊、准教授・荻原理、米原 優、2008年度『功利主義と人権—ミルにおける功利主義的権利論の検討—』

審査委員：教授・戸島貴代志(主査)、教授・野家啓一、准教授・直江清隆

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	1	0	0	0	1
06	3	0	0	0	3
07	2	3	0	0	5
08	2	0	0	0	2
09	1	1	0	0	2
計	9	4	0	0	13

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	0	4	0	0	4
06	0	3	1	0	4
07	0	2	1	0	3
08	0	5	0	0	5
09	2	2	1	0	5
計	2	16	3	0	21

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

大森史博「問いかけ——メルロ＝ポンティ後期存在論の射程」、日本現象学会編『現象学年報』第23号、2007年。

大森史博「実存的永遠性に向かって——メルロ＝ポンティにおける問いかけの帰

- 趨」、日本倫理学会編『倫理学年報』第 57 号、2008 年。
- 大森史博「共存する過去——メルロ＝ポンティのベルクソン解釈について」、岩手哲学会編『フィロソフィア・イワテ』第 40 号、2008 年。
- 横地徳広「認識論的転回の地平を求めて—ハイデガーとカント『純粹理性批判』—」、日本哲学会編『哲学』第 56 号、2005 年。
- 横地徳広「時間の倫理学—レヴィナス試論—」、東北大学国際文化学会編『国際文化研究』第 12 号、2006 年。
- 横地徳広「感覚と知識—E・レヴィナスの場合—」、東北哲学会編『東北哲学会年報』第 22 号、2006 年。
- 横地徳広「身体とその過去—レヴィナスの場合—」、東北大学倫理学研究会編『モラリア』第 14 号、2007 年。
- 米原優「ミルの寛容論—『自由論』における二種類のペナルティについて—」、日本倫理学会編『倫理学年報』第 56 集、2007 年。
- 米原優「パブリックジャーナリズムとコミュニタリアニズム、東北大学倫理学研究会編『モラリア』、2007 年。
- 池田準「自由と自然——批判期カント自由論における自発性と自律——」、東北哲学会編『東北哲学会年報』第 22 号、2006 年。
- 小原拓磨「現存在の精神病的変容とその世界」、東北大学哲学研究会編『思索』第 40 号、2007 年。
- 赤塚弘之「ハイデガーにおける歴史エ解釈について」、東北大学哲学研究会編『思索』第 42 号、2009 年 10 月（予定）。
- 赤塚弘之「若きハイデガーにおける歴史の問題について」、上智大学哲学会編『哲学論集』第 38 号、2009 年 10 月（予定）。

(2) 口頭発表

- 大森史博「メルロ＝ポンティ後期存在論と〈問いかけ〉の射程」、日本現象学会、2006 年 11 月。
- 大森史博「沈黙と問いかけ——メルロ＝ポンティ後期存在論の射程」、北日本哲学会、2007 年 1 月。
- 大森史博「共存する過去——メルロ＝ポンティのベルクソン解釈について」、岩手哲学会、2008 年 7 月。
- 大森史博「全体的な部分——メルロ＝ポンティにおける言語と表現の問題を手が

かりに」、実存思想協会、2009年7月。

横地徳広「認識の時間と図式—ハイデガー超越論的哲学の帰趨—」、実存思想協会、2007年6月。

横地徳広「道徳的人格性の存在論—ハイデガーとカント実践哲学—」、日本倫理学会、2006年10月。

横地徳広「身体とその過去—レヴィナスの場合—」、日本哲学会、2006年5月。

横地徳広「感覚と知識」、東北哲学会、2005年10月。

米原優「ミル『自由論』における natural penalty 概念について」、日本倫理学会第56回大会自由課題発表、2005年10月。

米原優「ミルにおける快の質的区別について」、Bentham 研究会、2007年2月。

米原優「ミルの自由概念再考—G・W・スミスによるミル解釈の批判的検討」、Bentham 研究会、2006年11月。

米原優「なぜ「自由原理」は未開人に適用されないのか」、北日本哲学会、2008年1月。

米原優「ミルにおける二つの自由概念」、イギリス哲学会第32回研究大会自由課題発表、2008年3月。

Masaru Yonehara, "Risk Perception and the Media", the 1st GCOE International Symposium, March, 2009.

池田準「自由と自然——批判期カント倫理学における両立論と非両立論——」、東北哲学会、2005年10月。

池田準「カントの自由論——形而上学講義 L1 における自由と自発性——」、北日本哲学会、2005年1月。

小原拓磨「妄想的現存在と原光景」、北日本哲学会、2008年1月。

小原拓磨「<私の死>と喪の経験」、日本現象学会、2008年11月。

小原拓磨「主観性の起源へ——メルロ＝ポンティにおける他者とまなざしの弁証法」、東北哲学会、2009年10月（予定）。

Takuma Obara, "Technology and environmental movement", the 1st GCOE International Symposium, March, 2009.

赤塚弘之「前期ハイデガーにおける「ヒストリーエ」について——『存在と時間』第2部の課題「哲学の歴史の解体」と第1部第2篇第76節の連関をめぐって」、東北大学哲学研究会、2009年9月。

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5- 1 大学院生・学部学生等の留学数

なし

5- 2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
計	0	0	0

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	0	0	0
09	1	0	1
計	1	0	1

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7- 1 専攻分野出身の研究者

齋藤直樹 盛岡大学文学部 2008 年度

横地徳広 弘前大学人文学部 2007 年度

竹之内裕文 静岡大学農学部 2005 年度
後藤敏行 青森中央短期大学 2004 年度

7- 2 専攻分野出身の高度職業人

中学教員 1 名
高校教員 4 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『東北哲学会年報』（年刊）
『思索』（年刊）
『モラリア』（年刊）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

東北哲学会事務局 2005 ～2009 年度

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

東北大学哲学研究会 2005～2009 年度
東北哲学会大会第 55 回大会 2005 年度
東北哲学会大会第 57 回大会 2007 年度

13 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

倫理学専攻分野は、これまではどちらかというと、個別倫理の実際的な探求よりは、およそ倫理というものが成立しえる人間存在そのものの原理的な探求が中心であった。ドイツ・フランスの現象学を中心とした研究体制も、そうした方向と軌を一にするものとして維持されてきた。しかしながら、昨今の個別・実際的な倫理の問題状況にかんがみて、今後は、よりアクチュアルな問題に対する研究体制の拡充も図られるべ

きであろう。学生の問題意識も、現実社会における個別の問題を視野に入れたものになってきている。

組織としての教育活動について

基本的には上の研究活動と理念を共にするが、もともと少人数である本専攻分野では、いわゆる世間の要求に即座に応える明敏な人材の育成というよりは、先に「人間存在そのものの原理的研究」と述べたように、社会の目立たぬ場所で人知れず世を支える骨太の人間の育成に励んできた経緯がある。この方向に沿って、研究成果をより広く市民一般にも開放する意図を持って、平成 19 年度は、倫理学専攻分野において全 5 回の「みやぎ県民大学」が開かれた。またこれを受ける形で、平成 20 年度および 21 年度には、「日曜大学」として、3 週間に一度の定期公開講義を一般市民に提供している。

Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009 年度）

1 教員による論文発表等

1- 1 論文

戸島貴代志「現象学的思惟—思惟することは思惟されているものによって捉えられている」、『思索』第 38 号,pp.1-21、東北大学哲学研究会、2005.

戸島貴代志「ベルクソンと 18 世紀哲学 — ルソーとカントを巡って」、『ベルクソン読本』法政大学出版局、pp.151-160,2006.

戸島貴代志「現象学的思惟—思惟することは思惟されているものによって捉えられている(後編)」、『思索』第 39 号, pp.1-21、東北大学哲学研究会、2006.

戸島貴代志「長い時・短い時」、『創文 2007 年 12 月号』、pp.1-5,創文社、2007

戸島貴代志「アリエナツィオン」『『存在と時間』刊行 80 周年記念論文集』pp.228-246、法政大学出版局、2007

戸島貴代志「出自」『モラリア』第 15 号、東北大学倫理学研究会、2008

戸島貴代志「生命の上流」『哲学』第 60 号, pp.83-99、日本哲学会、2009

齋藤直樹「「仮面」としてのディオニュソス—初期ニーチェにおける「ディオニュソスの象徴法」の概念について、『倫理学年報』第 54 号,pp.51-65、日本倫理学会、2005.

齋藤直樹「行為の意味についての「表出主義的議論」の妥当性に関する一考察—エアーならびにスティーブソンによる「情動主義」的意味論の検討を介して、『モラリア』第 13 号,pp.29-53、東北大学倫理学研究会、2006.

齋藤直樹「構成主義的技術論における「受容」概念に関して—技術論と美学との対話の可能性を求めて、『モラリア』第14号,pp.8-28、東北大学倫理学研究会、2007.

1- 2 著書・編著

戸島貴代志『創造と想起 — 可能的ベルクソニズム—』理想社、2007

1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(解説)

戸島貴代志「倫理の原点—民俗学的視点から—」『人文社会科学の新世紀』原研二編、pp.13-20、東北大学出版会、2006.

(書評)

戸島貴代志「『ディルタイと現代』」、実存思想論集、pp.193-197、実存思想協会編 2004.

戸島貴代志「鷺田清一著『思考のエシックス』ナカニシヤ出版」『週間読書人』2007年7月号

戸島貴代志「齋藤慶典著『知ること、黙すること、遣り過ごすこと』講談社」『週刊読書人』2009年2月号

(事典項目)

齋藤直樹『応用倫理学事典』丸善出版事業部、「映像倫理」Ⅲ-2・3、2007.

(その他)

戸島貴代志「篠憲二教授の思索の道行き」、『文化』第六十九巻、第三・四号 pp.26-31、東北大学文学会、2006.

齋藤直樹『美的経験』(R.Bubner, *Ästhetische Erfahrung* の翻訳)法政大学出版局、第3・5章、2009(刊行予定)

1- 4 口頭発表

戸島貴代志 「現象学的思惟 — 思惟することは思惟されているものによって捉えられている」Husserlabend 東北大学/仙台市、2005年6月11日

戸島貴代志 「長い時・短い時」(シンポジウム)実存思想協会・ドイツ観念論研究会共催シンポジウム 早稲田大学/東京都、2007年9月29日

戸島貴代志 「『創造と想起』について」(書評会)ベルクソン哲学研究会、京都大学/京都市、2008年3月23日

戸島貴代志 「『死と誕生』について」 (書評会) ハイデガー哲学研究会、東京女子大学/東京都 2008年6月29日

戸島貴代志 「ベルクソンを読み直す」 (共同討議) 日本哲学会、慶応大学/東京都 2009年5月17日

2 教員の受賞歴 (2005~2009年度)

なし

IV 教員による競争的資金獲得 (2005~2009年度)

(1) 科学研究費補助金

平成15年度~17年度 課題番号 15320001 基盤研究(B)(2) 平成17年度から研究分担者 戸島貴代志 (代表 篠憲二) 「Well-being (福祉・いい暮らし・幸福) 概念の再検討とその実践的適用」 14,600,000円 (3年間総額)

平成14年度~16年度 課題番号 14380064 基盤研究(B)(1) 研究分担者 戸島貴代志 (研究代表者 太田泰雄) 「高等専門学校における〈ものづくり教育〉の新しい展開」 11,600,000円 (3年間総額)

平成18年度~20年度 課題番号 18202001 基盤研究(A) (一般) 研究分担者 戸島貴代志 (研究代表者 野家啓一) 「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」 28,650,000円 (3年間総額)

平成21年度~23年度 課題番号 21520002 基盤研究(A) (一般) 研究代表者 戸島貴代志 「対話の垂直性—ハイパーダイアログの包括的理解—」 4,640,000円 (3年間総額)

(2) 東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム

平成18年度~19年度 研究代表者 戸島貴代志 「大学間における工学倫理教育プログラムの改訂マニュアル作成—工学関連学会での倫理規定をふまえて—」 2,000,000円(1年半総額)

(3) 財団法人「風樹会」研究奨励金

平成18年度~22年度 研究代表者 齋藤直樹 「ニーチェおよびアドルノにおける美的倫理の研究」 2,800,000円(5年間総額)

V 教員による社会貢献（2005～2009 年度）

戸島貴代志 「生あっての死、死あっての生」 タナトロジー研究会、宮城県仙台市岡部医院、2006 年 2 月 23 日

戸島貴代志 「生きられる死」 みやぎ県民大学開放講座（実行責任者）東北大学、2007 年 8 月 25 日（本講座は倫理学専攻分野が世話役で 9 月 22 日まで全 5 回で行われた）

戸島貴代志 「よく生きること、よく考えること」（第 1 回）ステップアップ開放講座（実行責任者）東北大学、2007 年 12 月 1 日

戸島貴代志 「よく生きること、よく考えること」（第 2 回）ステップアップ開放講座（実行責任者）東北大学、2007 年 12 月 8 日

戸島貴代志 「日曜大学」東北大学にて 3 週間に一度の定期公開講座、2008 年 4 月より実施中

戸島貴代志 「まことの花—身体の時間と心の時間」 「みやぎ県民大学」東北大学、2009 年 9 月 15 日

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2005～2009 年度）

戸島貴代志 実存思想協会幹事・論集編集委員（2005 年度～）

戸島貴代志 実存思想協会理事・同幹事（2007 年度～）

戸島貴代志 東北哲学会委員（2008 年度～）

戸島貴代志 実存思想協会理事・同幹事（2008 年度～）

戸島貴代志 日本倫理学会年報編集委員・和辻賞選考委員（2009 年度～）

齋藤直樹 東北哲学会幹事（2008 年度～）

VII 教員の教育活動（2009 年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

戸島貴代志 倫理学研究演習Ⅲ、Ⅳ
倫理学特論Ⅲ

2 学部授業担当

戸島貴代志 倫理思想基礎講読Ⅱ、Ⅲ
倫理思想演習Ⅴ、Ⅵ
倫理思想各論Ⅲ

倫理思想概論 I

3 その他

戸島貴代志 基礎ゼミ

(2) 他大学への出講 (2005～2009 年度)

齋藤直樹 宮城学院女子大学 (哲学) (2006～2008 年)

齋藤直樹 日本大学 (哲学) (2008 年)